

Ⅲ 果 樹

1. りんご

- (1) **さんさ** (系統名 盛岡42号) 1996年
 登録番号：(北海道) りんご移第10号
 (農水省) りんご農林7号
 (種苗法) 第1565号

セールスポイント

食味が良く、黒星病に抵抗性がある。

来歴 本品種は、1969年に農林水産省果樹試験場盛岡支場が「あかね」の花粉をニュージーランドに送り、これを花粉親とし、ニュージーランド品種「ガラ」を種子親としてニュージーランドで交配が行われ、得られた交雑実生から選抜・育成された。1981年から「盛岡42号」の系統名で各種の試験を行い、1986年に「さんさ」として農林登録され、1988年種苗法に基づく品種登録がなされた。北海道では、1985年より各種の試験が実施され、1996年に優良品種となった。

特性の概要

- 樹姿はやや直立する。樹勢は弱く、樹体の大きさは「つがる」よりやや小さい。葉色は淡緑である。花芽の着生は比較的良好である。
- 発芽から開花に至るまでの生育相は、ほぼ「つがる」と同時期に経過する。収穫期は「つがる」より若干早い。

- 1樹あたり収量は「つがる」に比べて低い。
- 果実は円錐形で、果実の大きさは「つがる」と比べると小さい。着色は紅色ないし鮮紅色で、美しい色調を呈する。「つがる」に比べて糖度、酸度が高く、果肉がしまっている。食味は果汁が多く、甘さと酸味の調和がとれており、非常に良い。蜜は入ることがあるがわずかである。心かびは認められない。
- 貯蔵期間としては室温で2週間、冷蔵で1か月程度と考えられる。
- 黒星病に対して抵抗性があり、「つがる」に比べて明らかに黒星病の発生が少ない。
- 道内の主要品種との交配親和性は問題ないが、問題とする組み合わせとして「ジョナゴールド」×「さんさ」がある。

栽培適地と奨励態度

本道のりんご栽培地域に適する。樹体が大きくならないので、栽植密度は「つがる」と同程度かやや狭くする。枝の発生が少ないので、切り返し剪定を主体におこない枝の発生を促す。着色が先行するが、収穫期は糖度、食味などから総合的に判断し早採りを慎む。収穫前落果が少ないため、収穫が遅れることがあるが、収穫が遅れると、果肉の軟化が進み、内部褐変も発生するので、収穫が遅れないようにする。

試験場所	品種名	満開期 (月日)	収穫期 (月日)	積算 収量 (kg)	果実品質					黒星病 果率 (%)	試験年次
					果実重 (g)	着色 (0~10)	硬 度 (lb)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)		
中央 農 試	さんさ	5.31	9.26	35.1	208	8.9	13.8	13.9	0.47	0.1	1986~1995
	つがる	5.30	10.2	70.8	241	8.5	13.1	13.4	0.34	36.5	
北海道 農 試	さんさ	5.28	9.27	68.3	207	—	14.7	13.8	0.49	—	1989~1995
	つがる	5.26	9.29	88.8	247	—	13.5	13.5	0.33	—	

- 注 1) 満開期、収穫期は1993~1995年の平均。
 2) 積算収量は1樹あたり収量で、中央農試は樹齢7年生を除く4~9年生、北農試は樹齢7~13年生。
 3) 果実品質は中央農試では1992~1995年の平均、北農試は1989~1995年の平均。
 4) 黒星病果率は殺菌剤散布制限下での過去9年の黒星病果率の平均。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-21 (1996).
 2) 村松裕司 等, 北海道立農試集報, 73, 23-28 (1997).

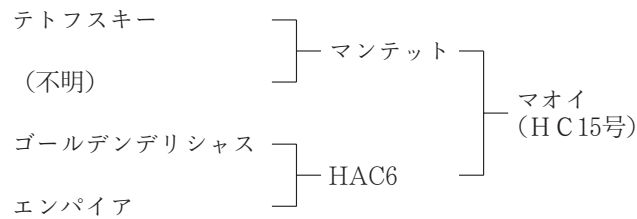
- (2) **マオイ** (系統名 りんごHC15号) 2000年
 登録番号：(北海道) りんご北海道第11号
 (種苗法) 第12305号

セールスポイント

果実が大きく、日持ち性に優れた、極早生品種である。

来歴 本品種は、早生で日持ち性のある品種の育成を目標とし、1982年に北海道立中央農業試験場において、「マンテット」を種子親、「HAC6」を花粉親として交配を行い、得られた交配実生から選抜・育成された。

1992年より「HC15号」の系統名で各種の試験を行い、2000年に優良品種となった。なお、本品種の系統図は以下のとおりである。



特性の概要

1. 樹姿はやや直立し、樹勢は「きたかみ」よりやや強い。葉は長形で「きたかみ」より長い。花は淡桃色で、大きさは「きたかみ」よりやや大きい。
2. 発芽期～落花期まで「きたかみ」とほぼ同時期である。収穫期は9月上旬で、極早生の「きざし」より5日程度遅く、早生の「きたかみ」より2週間程度早い。なお、熟期は、同一樹内でもばらつきがみられる。
3. 花芽は「きたかみ」と同等に着生しやすく、腋花芽の着生はやや多い。結実樹齢に達するのは4年生で、生産性は「きたかみ」と同程度に高い。早期落果及び収穫適期での後期落果はほとんどない。
4. 果実は「きたかみ」より大きく、果形は円である。収穫期の果皮の色は、地色が緑で、陽向面がわずかに着色する。果皮面は滑らかで、脂質は少なく、さびはこうあ部（果柄基部）にわずかに発生する。心かび、裂果はほとんど発生しない。果肉の硬さときめは「きたかみ」と同程度であるが、肉質は「きたかみ」、「き

- ざし」より優れる。食味はやや酸味が多いが香りがあり、さわやかである。
5. 果実の地色が「ふじ」のカラーチャートで2.0～2.5の時、収穫適期である。適期収穫された果実は、室温下でも軟化しにくく、収穫直後から6～7日間が適期である。
6. 本道で栽培される主要な品種とは交配親和性がある。黒星病抵抗性は有していないが、一般防除下で特に問題となる病害虫は認められない。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。樹勢がやや強く、新梢が遅伸びするような条件では凍害が発生する場合があるので、樹勢が強くなり過ぎないように注意する。同一樹内でも果実の熟期がばらつくので、果実の地色が「ふじ」のカラーチャートで2.0～2.5を目安にすぐり収穫する。着色を待って収穫すると、果実が樹上で軟化し食味が低下してくるので採り遅れないように注意する。

試験場所	品種名	満開期 (月日)	収穫期 (月日)	積算収量 (kg)	果実品質						試験年次
					果実重 (g)	着色 (0～10)	硬度 (lb)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	蜜入り (0～4)	
中央 農試	マオイ	5.28	9.7	40.5	258	4.1	14.5	12.3	0.82	0.1	1992～1999
	きたかみ	5.31	9.22	43.4	187	9.1	12.2	12.6	0.52	0.0	

- 注 1) 満開期、収穫期は1996～1999年の平均。
2) 積算収量は1樹あたり収量。
3) 果実品質は1996～1999年の平均。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 43-45 (2000).
2) 吉田昌幸 等, 北海道立農試集報. 82, 41-48 (2002).

- (3) **ひめかみ** (系統名 盛岡37号) 2001年
登録番号: (北海道) りんご移第12号
(農水省) りんご農林5号
(種苗法) 第931号

蜜入りが多く食味が良い。生食用だけでなく料理用にも適する。

来歴 本品種は、1968年に農林水産省果樹試験場盛岡支場において、「紅玉」を花粉親、「ふじ」を種子親として交配し、得られた交雑実生から育成された。1976年から

セールスポイント

「2910-15」, 1979年からは「盛岡37号」の系統名で各種の試験が行われ, 1984年に「ひめかみ」として農林登録され, 1985年種苗法に基づく品種登録がなされた。北海道では, 1984年より各種の試験が行われ, 2001年に優良品種となった。

特性の概要

1. 樹姿は中間からやや直立し, 樹勢は中からやや強で「つがる」よりやや強い。短果枝の着生は中で「つがる」「ノースキーン」より少ない。
2. 満開期は「つがる」に比べ1~3日, 「ノースキーン」に比べ3日遅い。収穫期は10月中旬の中生で, 「つがる」より15日前後遅く, 「ノースキーン」と同じかやや遅い。
3. 収量は「つがる」と同程度かやや多く, 隔年結果は認められない。耐寒性は特に問題ない。
4. 果実は長円から円錐形で, 果実重は「つがる」と同程度である。果皮色は濃赤色で縞が入り全面に着色する。果肉の硬さは「つがる」「ノースキーン」より硬く, 果実全体に蜜が入る。肉質は「つがる」並である。甘酸適和で, 食べたときに独特の香気があり良食

- 味である。加熱しても果肉が崩れにくく, 鮮やかな黄色を呈し, 料理用としても利用できる。収穫期には果面に脂質が少量発生する。さびはこうあ部(果柄基部)に少量発生する。芯かび, 裂果はほとんど発生しない。
5. 適期に収穫した場合の貯蔵期間は, 「レッドゴールド」に比べ硬度の低下が少なく貯蔵性が優れている。冷蔵での貯蔵期間は1月半程度である。
 6. 黒星病および斑点落葉病に対して抵抗性は有していないが, 慣行防除下で特に問題となる病害虫は認められない。
 7. 本道の主要栽培品種とは交配親和性があるが, 花粉親の「紅玉」とは不親和の傾向がある。

栽培適地と奨励態度

全道のりんご栽培地域に適する。栽培上の注意事項としては, 果皮強度が「つがる」や「レッドゴールド」に比べ弱いことから, 果皮に傷が付かないよう果実の取り扱いに注意する。本品種の特性を発揮させるためには, 十分蜜入りしてから収穫することが重要で, 地色指数5前後, ヨード反応0.5前後, 果皮表面に脂質が少し感じられる等が目安となる。

試験場所	品種名	満開期 (月日)	収穫期 (月日)	積算 収量 (kg)	果実品質						試験年次
					果実重 (g)	着色 (0~10)	硬度 (lb)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	蜜入り (0~3)	
中央農試	ひめかみ	6. 1	10.15	153.0	274	8.8	14.8	14.1	0.62	2.3	1994~2000
	つがる	5.30	10. 1	158.1	277	8.7	12.5	13.2	0.30	0.2	
北海道農試	ひめかみ	5.29	10.12	68.5	228	多	15.6	14.0	0.65	多	1989~2000
	つがる	5.26	9.29	28.1	240	中	13.6	13.4	0.34	無	

注 1) 満開期, 収穫期は1994~1999年(中央農試), 1989~1994年(北農試)の平均。
 2) 積算収量は1樹あたり収量で, 中央農試は9~15年生, 北農試は樹齢5, 6年生を除く樹齢4~9年生。
 3) 果実品質は中央農試では1995~2000年の平均, 北農試は1989,1992~1994,2000年の平均。

参照 1) 北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 22-24 (2001).
 2) 稲川 裕 等, 北海道立農試集報. 81, 37-40 (2001).

2. ぶどう

- (1) 藤稔(原名 藤稔)2000年
 登録番号: (北海道)ぶどう準移第8号
 (種苗法)第919号

で行った交配から選抜された四倍体品種である。1985年に種苗法に基づく品種登録がなされた。北海道では, 1996年から各種の試験を行い, 2000年優良品種となった。

セールスポイント

良食味で極大粒のハウス栽培向けの生食用品種である。

来歴 本品種は, 1978年に神奈川県藤沢市の青木一直氏が, 「井川682号」を種子親, 「ピオーネ」を花粉親とし

特性の概要

1. 樹体生育は「キャンベルアーリー」(以下「キャンベル」)よりも旺盛である。寒害による枯死芽率は問題ないレベルである。
2. 発芽期および展葉期は「キャンベル」と同時期で,

開花期は「キャンベル」よりやや遅い。

3. 5月上旬被覆での成熟期は、「キャンベル」より遅い。
4. 1樹当たり収量は、初結実から3年間の合計では「キャンベル」と同等である。樹冠占有面積当たりの収量は「紅伊豆」より多い。
5. 花振いの発生は「キャンベル」より多いが、「紅伊豆」より少ない。
6. 粒着はやや密で、果粒は短楕円形である。果皮は紫黒色で、果皮と果肉の分離は容易で食べやすい。果肉は崩壊性と塊状の中間で果肉の硬さは軟らかい。弱い

フォクシー香がある。裂果は僅かだが、収穫が遅れると発生することがある。果粒は極大で、糖度は高く酸度は低い。

7. 特に問題となる病虫害の発生は見られない。

栽培適地と奨励態度

生食用ぶどう栽培地域でのハウス栽培に適する。寒害を防ぐため、冬期は枝おろしを行う。樹勢が強いため、剪定は間引きを主体として極力弱くする。着果過多は、果粒肥大不足、熟期の遅れ、品質低下、耐寒性の低下など悪影響が大きいので注意する。

試験場所	品 種 名	発芽期 (月日)	満開期 (月日)	収穫期 (月日)	積算収量 (kg)	果 実 品 質				試験年次
						果房重 (g)	果粒重 (g)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	
中央 農試	藤 稔	5.7	6.30	9.30	4.9	281	12.5	17.0	0.53	1996~2000
	キャンベルアーリー	5.7	6.27	9.18	5.2	143	5.0	16.6	0.81	
	紅 伊 豆	5.7	6.28	9.30	3.9	253	12.1	16.6	0.90	

注 1) 満開期、収穫期は1997~1999年の平均、果実品質は1999、2000年の平均。
2) 根域制限栽培。

参照 1) 北海道農政部編, 平成12年普及奨励ならびに指導参考事項, 46-48 (2000).
2) 内田哲嗣 等, 北海道立農試集報. 79, 81-84 (2000).

3. おうとう台木

(1) チシマ台1号 (系統名 DS1) 2002年

登録番号: (北海道) 台木類 (おうとう) 北海道交
第1号
(種苗法) 第12376号

セールスポイント

アオバ台に比べて耐寒性が強く、接ぎ木親和性が高い。コルト台に比べてわい化性が強く、樹体が大きくなるない。

来歴 本品種は、耐寒性が強く、わい化性に優れるおうとう台木の育成を目的として、1978年に北海道立道南農業試験場が道内各地から収集したチシマザクラの種子から養成した台木に、おうとう品種を接ぎ木し、それらの台木特性を検討し、選抜したもので、1992年より「DS1」の系統名で各種の試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性の概要

1. 耐寒性は、アオバ台に比べて明らかに強いが、二重台「南陽」ではコルト台に比べてやや弱い。自根台は

二重台より耐寒性が強い。

2. わい化性はコルト台に比べて明らかに強く、アオバ台に比べて同等かやや弱い。自根台は二重台に比べてわい化度はやや弱い。
3. 幼木における花芽の着生はコルト台より多く、アオバ台と同程度である。自根台は二重台に比べて花芽の着生はやや少ないがコルト台より多い。
4. 収量は二重台では「北光」でアオバ台より多いが、「南陽」ではコルト台より少ない。自根台「南陽」は二重台「南陽」より明らかに収量が多い。
5. おうとう品種との接ぎ木活着率は高い。接ぎ木部位の接合状態はアオバより明らかに良い。
6. 吸枝(根ばえ)はコルト、アオバでは発生するが、発生しない。しかし、二重台にした場合、アオバ部分から吸枝が発生することがある。
7. 繁殖性はアオバ、コルトに比べて劣るが、アオバを補助根とした二重台木と緑枝ざしによる自根台木での繁殖が可能である。二重台木はアオバに芽接ぎして概ね2年後におうとう品種と接ぎ木可能となる。自根台木は挿し木後の生育が緩慢なため、おうとう品種と接ぎ木可能となるのに挿し木4年後となる。

8. 果実品質に対する台木の影響は、一定の傾向として認められない。
9. 満開日と収穫盛期に対する台木の影響は認められない。

地域で利用する。栽培上の注意としては、二重台では栽植距離はアオバ台と同程度かやや広くする。自根台では栽植距離はアオバ台よりやや広くし、コルト台より30%程度狭くする。二重台ではりんごの二重台（M26／マルバカイドウ）と異なり、栽植後「チシマ台1号」部分からの発根が認められないので深植えをしない。「南陽」は自根台を利用する。

栽培適地と奨励態度

全道のおうとう栽培地域で、アオバ台で衰弱樹や枯死樹が発生する地域、コルト台で樹体が大きくなりすぎる

試験場所	台木	台木特性（穂品種は「南陽」）								試験年次
		凍害枯死樹割合	幹断面積比	花芽数（4年生）	積算収量(kg)	果実品質				
						果実重(g)	着色度(1-5)	糖度(%)	酸度(g/100ml)	
中央農試	チシマ台1号（二重）	0/4	54	57	11.0	8.5	3.6	13.7	0.50	1993～2001
	コルト	0/4	100	9	50.2	8.5	3.3	14.4	0.52	
	アオバ	4/4	—	18	—	—	—	—	—	
	チシマ台1号（自根）	0/2	69	27	10.1	9.7	3.3	15.2	0.57	1995～2001
	チシマ台1号（二重）	0/2	53	60	3.5	9.6	3.1	14.8	0.56	

- 注 1) 凍害枯死樹割合は累積枯死樹数／供試樹数。
- 2) 幹断面積比はコルトを100とする。
- 3) 積算収量は1樹あたり収量で、上段は10年生まで、下段は8年生までの合計。
- 4) 果実品質は1998～2001年の平均。

- 参照 1) 北海道農政部編，平成14年普及奨励ならびに指導参考事項，10-12（2002）。
- 2) 村松裕司 等，北海道立農試集報．86，47-56（2004）。